BUNKAZAI 情報

令和４年
（2022）
９月 20 日

第 32 号

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

新たな熊谷市指定文化財「集福寺境内・建造物群」

市内下奈良に所在する「集福寺境内・建造物群」を熊谷市文化財の記念物・史跡に指定しました。

令和４年７月定例教育委員会（７月５日開催）において、市文化財保護審議会から市文化財の指定が適当との答申が出されていた「集福寺境内・建造物群」について議案提出がなされ、指定について承認され、同日付けで市文化財に指定されました。

集福寺境内及び建造物群において特筆すべき点は、仏教の歴史とも関わる寺院建造物群の配置である伽藍（がらん）形式が残されていることにあります。建造物群の大半は江戸時代後期の建立ですが、伽藍形式を構成する各建造物の技術的な水準が高く、法堂（はっとう）（本堂）及び仏殿の建築様式は、当時の社寺建築の変遷を知る上でも貴重な事例です。また、当地の江戸時代の慈善事業家である吉田市右衛門を中心とする地元の名主等が協力し、寺院の保存に努めたことの意義は大きく、境内地の保存も継続的に行われてきた経緯があります。このように、地域信仰に基づく寺院保存が現代に引き継がれた歴史的意義は大きく、また境内地が豊かな自然環境にも優れていることから、記念物・史跡としての価値が高く評価されました。（山下）

法堂（本堂）

仏殿

無形民俗文化財の記録化―棒術・東別府祭囃子―

７月１７日、市の無形民俗文化財に指定されている「棒術」が上川原自治会集会所で行われ、アルスコンピュータ専門学校の生徒による記録動画の撮影が実施されました。この記録動画作成事業は、県文化振興課主催によるもので、今後、完成した動画は YouTube 等で配信される予定です。

また、７月２４日には、新型コロナウイルスの影響で２年間休止していた東別府神社の夏祭りが３年ぶりに開催されました。当日は、朝早くから神輿が神社を出発し、お囃子に先導されながら、東別府地区内を巡行しました。

今年は、各地で伝統の祭りやイベントが再開の動きをみせています。祭礼や芸能といった無形の文化財は、人々が活動することによってはじめて成り立ち、継承が可能となります。感染対策に十分留意して少しずつ活動を再開しながら、再びコロナ禍以前のように、安心安全に伝統文化の継承が行われることを願ってやみません。（山川愛）

上川原神道香取流棒術

東別府祭囃子

市内遺跡発掘情報

新指定熊谷市文化財考古資料の巡回展

令和３年度に新たに指定された市有形文化財考古資料「中西遺跡出土遺物（土偶、辰砂、パレット状土器）」及び「立野古墳群第１２号墳出土遺物（金銅製毛彫杏葉ほか馬具等副葬品一括）」２件の巡回展を行っています。

巡回展は、市内３か所で開催しており、令和４年５月３０日から７月１１日までは熊谷市立江南文化財センター、７月１３日から９月１１日まではくまぴあ創作展示棟３階の出土遺物展示室で行いました。９月１３日からは、１１月６日までの期間、市立熊谷図書館３階の郷土資料展示室で開催中です。皆さん、ぜひこの機会に市内の遺跡から出土した歴史的価値のある優品の数々をご覧ください。（松田）

くまぴあでの展示風景

市政宅配講座と展示で国史跡「幡羅官衙遺跡群」を知る

７月２６日、新堀公民館において、市政宅配講座「国指定史跡「幡羅官衙遺跡群」を知る」の講座を開講しました。この講座は本史跡が平成３０年２月に国史跡に指定されて以降新設された講座で、これまでに地元の別府公民館や別府小・中学校をはじめとして依頼を受け、本史跡及び関連する遺跡の説明をし、遺跡群の重要性や希少性等について啓発しています。

本遺跡群は、本市と深谷市にまたがって所在する飛鳥時代から平安時代にかけて営まれた古代の役所跡及びその関連施設跡で、正倉・役所の実務を行った施設等がある幡羅郡家（ぐうけ）（郡役所）、湧泉祭祀場跡、寺院跡から構成されています。

今回受講の皆さんは、市内に古代の貴重な文化財が埋もれていたことに驚くとともに、どうにかして再現、復元はできないものかとの意見を出すなど、とても熱心に、また強く興味をもって傾聴していました。

また、江南文化財センターでは、常設の国史跡「幡羅官衙遺跡群」を紹介する展示（右写真）がありますので、ぜひ足をお運びください。（腰塚）

連載　くまがやの古墳群

㉖　阿諏訪野古墳群　－小円墳で構成される古墳時代終末期の古墳群－

阿諏訪野古墳群は、大里地区の箕輪、荒川右岸の江南台地東南端に所在する古墳時代終末期（飛鳥時代）に造られた古墳群です。かつて古墳が立地していた北東方向に緩やかに傾斜する台地は、標高約３５～２７ｍを測り、すぐ東に荒川右岸の低地を臨みます。

本古墳群は、１０基に満たない小円墳で構成され、発掘調査では、円墳６基と礫槨墓１基が確認されましたが、調査後削平され消滅しています。

調査により検出された円墳６基のうち、第１号墳が直径約２２ｍで最大、第２号墳が直径約９ｍで最小です。また、埋葬施設である石室が検出されたのは第１～３号墳の３基で、いずれも遺存状態が良くない状況でした。出土遺物もほとんど検出されていません。

第１号墳は、凝灰岩切石積みの胴張型横穴式石室を持ち、周溝から須恵器坏・甕・横瓶（よこべ）、土師器坏等が出土しています。第２号墳は、凝灰岩切石積みの短冊型横穴式石室を持ち、出土遺物はありません。第４号墳は、調査時点で既に削平を受け埋葬施設は検出されず、周溝から須恵器平瓶（ひらべ、へいへい、ひらか）が出土しています。いずれの古墳も埴輪の樹立が見られないことと出土遺物から、７世紀前半～中頃の築造であると考えられます。（吉野）

第２号墳

第４号墳周溝　須恵器平瓶出土状況

文化財センター通信

◇講演会「熊谷の先人たちと渋沢栄一」

８月４日、大里生涯学習センター「あすねっと」文化ホールで、熊谷市教育研究会が開催され、基調講演会として「熊谷の先人たちと渋沢栄一―熊谷の近代化と渋沢栄一の人物交流史を主題として―」が行われました。渋沢栄一と熊谷の近代化に尽力した人々との交流等をテーマにしたもので、明治 43 年（1910）11 月６日、熊谷を訪れた渋沢栄一が、埼玉県立熊谷中学（現在の熊谷高校）で行った教育に関する講演を紹介しました。この度は、渋沢と教育について考える機会となったと思います。（山下）

◇夏休み企画あなたも古代人

火起こし体験の様子

７月 25 日から８月５日にかけて、主に小学生を対象とした古代体験事業を行いました。今年は昨年より人数を増やしての開催で、総勢 223 名の親子が参加してくれました。体験メニューは、「土器・はにわづくり」「まが玉づくり」「ミニ銅鏡づくり」の三本立てです。今年も個性豊かなオンリーワンの作品がたくさんできあがりました。作品完成後は、お楽しみの「火起こし体験」でした。火起こしを目当てに申し込むリピーターもたくさんいて、煙が立ち始めるとみんな夢中です。暑い中、大人も子どもも古代人になりきって奮闘していました。（星）

◇星溪園リーフレットリニューアル

市指定文化財名勝「星溪園」を紹介するリーフレットを新たに刊行しました。内容は、庭園や建造物の概要、創設者の竹井澹如（たんじょ）について紹介しています。以前のリーフレットを刷新し、園内の句碑や歌碑等の紹介を新たに加えています。また、添付 QR コードの読み取りにより、熊谷デジタルミュージアムにアクセスできるようになっています。体裁は A４判三つ折り・全カラーで、１０，０００部作製しました。なお、６月１４日には刊行記念のフォーラムを星溪園で開催し、改修３０周年と合わせて星溪園の歴史を再認識することができました。（山下）

【文化財探訪　文化財保存修復学会報告「平戸の大仏（おおぼとけ）」】

６月１８、１９日の２日間、文化財保存修復学会第４４回大会が熊本県立劇場（熊本市）で開催されました。文化財保存修復学会とは、研究者や修復家、学芸員、教育機関の関係者等、文化財保存に関わる様々な人が集まる学会で、毎年、年に１回大会が開催されます。

今大会では、仏像の修復家である吉備文化財修復所代表の牧野隆夫氏が、熊谷市指定文化財・木彫大仏坐像の保存修理について「埼玉県熊谷市平戸「大仏」保存活動に見る地域文化継承-像修理と新本堂への移動作業を中心に-」と題して発表を行いました。牧野氏は、源宗寺本堂保存修理委員会発足時からオブザーバーとして、本堂の建替えに伴う仏像の保全に携わり、昨年、一昨年の大会でも当事業について取り上げました。発表では、本市教育委員会撮影の動画等を活用し、迫力ある大仏の移動映像が流れると、会場からは大きな拍手が湧き起こりました。

昨年度、源宗寺本堂の建替えが完了し、無事新たな本堂に納められた木彫大仏坐像の２体（平戸の大仏）ですが、移動・保全の過程で、劣化や欠損した部材の詳細が明らかになりました。来年度実施予定の第２期修理では、薬師如来の薬壺や観音菩薩の蓮華、宝冠、胸飾り等の復元を行う予定です。（山川愛）

文化財コラム　「熊谷八景」詩

熊谷八景は、市域の名勝風致を選び作られた漢詩です。ある場所を詩題として作詩・作画することが流行りましたが、個人的な作例が多いためかほとんど残っていません。最近、天保年間(1830～44)作成と推定できる遺作を発見したので紹介します。当時の作者が、優れた景観や心地よい場所等「好ましい空間」と考えた場所を私たちも知ることは、環境保護を見直す視点の一つになると思います。詩は次のとおりです。

高城晴嵐(高城神社)　風叫青林飛雨急　高城四境有無郊　須臾晴定西疇麦　併喜東丘烏鳥巣
熊谷晩鐘(報恩寺か)　月登風下一層楼　山遠水長寒露郵　旅客倍猿熊谷夕　鐘聲緊送断腸秋
星宮夜雨(星宮地区)　無月無風無散気　瀟然細雨水精宮　晩秋連夜天如墨　一點寒蛍野草中
長堤夕照(久下の土手)　残陽一刻直連城　月是初三寒露晴　紅蓼白蘋堤錦繡　流光歛豔水瑩々
荒川帰帆(旧新川河岸)　南堤新築古城東　江燕引雛来賀功　三四蒲帆帰到後　炊煙閑起碧林中
石上秋月(石上寺)　凭欄千頃黄稲白　隠几三更近舍礎　星水東流星火遠　一輪秋月到天心
欠土落雁(欠土)　本是桑田非海集　自然時勢露為霜　看々昨日青蘆水　雪客讓洲陽信即
秩山暮雪(秩父遠望)　西望数嶺皎如玉　臘雪未消春雪残　多少行人何処宿　鴛鴦城外晩風寒

ぜひ観賞を試みてください。この詩についての紹介と解説は『熊谷市史研究』第１４号に掲載してあります。なお、熊谷デジタルミュージアムで、本欄に意訳を例示したいと思いますのでご期待ください。(新井)

マニアックな文化財メモ

「自然災害伝承碑」の再認識に向けて

３月、総務省行政評価局評価監視官室の担当官が、市内の「自然災害伝承碑」を視察しました。過去の水害や洪水被害の状況、土手や堤防の再建等について記した石碑や構造物を「自然災害伝承碑」と称し、国では、伝承碑の位置情報を把握した上で、地図に掲載する取組みを行っています。これは、住民に災害教訓を普及させ、教訓を踏まえた的確な防災行動による被害の軽減を目指すものです。本市では万平公園や荒川・利根川周辺等に所在し、当時の歴史を今に伝えています。今後は、これらの情報を集約し、伝承碑の登録に向けて調査を進めていく予定です。(山下)　　(右写真：荒川の決壊の歴史を刻む「久下堤碑」)

編集後記

20 世紀、茶の湯の歴史を学ぶ上での必読書と評価された熊倉功夫著『茶の湯　わび茶の心とかたち』が、コロナ禍の時期に新たに再版されました。初版時の 70 年代は日本での茶道人口が増加していましたが、昨今では減少が続き、そして、コロナ禍という危機へ。ソーシャルディスタンスという制約が日常化し、茶会の開催や茶道文化の継承は、想像以上に厳しい岐路に立たされています。市指定文化財名勝「星溪園」での茶会開催も同じ状況です。

新版で著者は、「この危機にあって、新しい茶の湯がうまれるにちがいない」という展望を示しています。時代に応じた新たな方法と感覚を取り入れながら、文化芸術や文化財の持続可能性について思いを馳せたいと考えています。(山下)

発行：令和４年９月２０日（2022/9/20）
熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）
〒360-0107　熊谷市千代３２９番地
電話：048-536-5062　FAX：048-536-4575　メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp
ＨＰ:「熊谷デジタルミュージアム」http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm
ブログ「熊谷市文化財日記２」、熊谷市観光・文化財ナビゲーションアプリ「くまここ」更新中